福projects　－結－

2025年12月12日－12月20日

作家名	タイトル	サイズ		画像	価格
阿部ふみ ABE FUMI	お祝いの花	6F （31.8×41.0㎝）	キャンバス、油彩 アクリル、オイルパステル		¥110,000
漆原夏樹 URUSHIHARA NATSUKI	花結い	6M （24.2×41.0㎝）	紙本彩色		¥220,000
大島真由美 OSHIMA MAYUMI	SIO2 宇宙ネコ あったかい	25.6×20.5㎝	紙本彩色		¥132,000
狩野宏明 KANO HIROAKI	姫神様	6F （41.0×31.8㎝）	アクリル絵の具 ミューグラウンド、パネル		¥154,000
北嶋勇佑 KITAJIMA YUSUKE	むすびのそら	6S （41.0×41.0㎝）	木版モノタイプ 油絵具、黒紙、本金箔		¥264,000

2025年12月現在の価格です

福projects　－結－

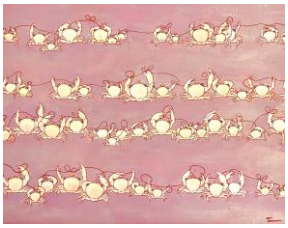
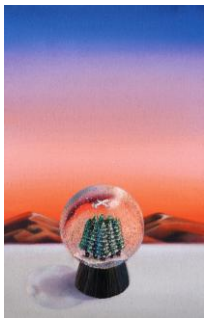
2025年12月12日－12月20日

作家名	タイトル	サイズ		画像	価格
佐々木怜央 SASAKI LEO	ANIMA	(H)23.5×(D)6.5㎝ (W)9.0㎝	ガラス、金属箔		¥143,000
財田翔悟 TAKARADA SHOGO	結	4F （33.3×24.2㎝）	綿布、ピグメント 岩絵具、アクリル絵具		¥82,500
TETS	生魂御祖命 （いくむすびのみこと）	41.0×22.0㎝	キャンバス、ミクストメディア		¥181,500
寺内誠 TERAUCHI MAKOTO	硬く柔らかな窓辺	4S （33.3×33.3㎝）	パネル、綿布、白亜地 油彩		¥159,500
野崎慎 NOZKAI CHIKA	宙を見つめる	3F （27.3×22.0㎝）	紙本彩色		¥93,500

2025年12月現在の価格です

福projects　－結－

2025年12月12日－12月20日

作家名	タイトル	サイズ		画像	価格
福崎翼 FUKUZAKI TSUBASA	りぼん	6F （31.8×41.0㎝）	パネル、和紙、顔彩		¥143,000
福嶋さくら FUKUSHIMA SAKURA	route	6P （41.0×27.3㎝）	綿布、アクリル絵具、糸		¥85,800
山内隆 YAMAUCHI TAKASHI	那智滝図 ② / 紀伊 / 和歌山	(H)37.0×(W)7.8㎝ (D)2.7㎝	板、石		¥154,000

2025年12月現在の価格です

福projects －結－

作家たちのコメント

阿部ふみ「お祝いの花」

6F（31.8×41.0㎝）

キャンバス、油彩、アクリル絵具、オイルパステル

新しいギャラリーのお祝いに赤い花を贈ります。
この場所で作品たちがたくさんのご縁で結ばれますように、という願いを込めました

漆原夏樹「花結い」

6M（24.2×41.0㎝）
紙本彩色

それぞれの季節や場所で咲く草花、共存し得なかったものたちを絡み合う姿にすることで、思いがけない花色の対比や表情の変化が生まれるように感じる。
日々の出会いや事象における、そのような思いがけない反応や昇華の瞬間を、草花が振り結ぶ景色として描いた。

大島真由美

「SIO2 宇宙ネコ あったかい」

25.6×20.5㎝

紙本彩色

シリカの星には、雨の日が二つありました。
ひとつは水の雨、もうひとつは、空が眠る夜にだけ降る“ガラスの雨”。
青い雫はゆっくり落ちて、地面に触れるとパリン、と小さな鈴のように鳴って砕けます。
星じゅうが、透明な音で満たされる夜です。

その星のはじに、卵のかたちをした小さな子どもがいました。
まだ世界に出るには少しだけ疲れていて、胸の奥では赤い灯りがゆらゆら揺れています。
それは命の火で、昨日まで歩いてきたがんばりの炎でした。

そんな子どもを見つけたのが、大きい大きい宇宙ネコでした。
宇宙ネコは言いました。
「おいで。きょうは、我のおなかで眠るとよいよ。」

宇宙ネコのおなかは、ふかふかで、あたたかくて、バフッと雪雲に飛びこんだときみたいな匂いがしました。
毛はやわらかくて、ときどきチクッとしました。
そして、ネコが息をすったりはいたりするたびに、子どもの体にもゆっくりとした波が伝わって、どんどん安心が広がっていきます。

あたりではガラスの雨が星を奏でていました。
パリン、パリン。
それは銀河鉄道がはしる白鳥区産でとれる、鳥のお菓子を思い出す透きとおったひびきで、世界を遠くに押しやる音でした。

そして宇宙ネコは、まあるくなった子どもを見つめながら、そっとつぶやきました。
「君は遠くから来たんだね。
…今日みたいな夜を我は福の夜って呼んでるんだ。
空と一緒に眠る夜。
ゆっくりおやすみ。」

こうして子どもは、世界でいちばんやさしいお腹の中で眠り、
ほんの少しだけ、もう一度生まれなおす準備をしたのでした。

狩野宏明「姫神様」

6F（41.0×31.8㎝）

アクリル絵の具、ミューグラウンド、パネル

石川県の白山比咩神社の主祭神である菊理媛神（ククリヒメノカミ）をモチーフに描いた。

菊理媛神は『日本書紀』に登場する女神で、イザナギに禊を勧めた神として、生まれ清める浄化や再生を司る。また、黄泉の国の境でイザナギとイザナミを仲裁した神として、結びや和合の神ともされる。

私が白山比咩神社を訪れた時、境内はちょうど七五三の家族連れで賑わっていた。再生や結び、和合を司る神の姿を、祭事で着飾った子供の姿と重ね合わせて描いた。

北嶋勇佑「むすびのそら」

6S（41.0×41.0㎝）

木版モノタイプ／油絵具、黒紙、本金箔

この作品は、「一富士二鷹三茄子」という縁起の良いモデルに、展覧会のテーマである「結」の想いを重ねて制作しました。

古来より、富士（無事）、鷹（つかみ取る）、茄子（成す）は、人々の幸福を願う象徴です。

画面では、力強く舞う鷹と霊峰富士を背景に、成就を意味する茄子を鮮やかな色彩で表現しました。

特にこだわったのは、画面下の紫の茄子に添えた、固く結ばれた紐です。

これは、人々の心からの祈りや願いが解けることなく、永遠に幸福が結びつくようにという強い願いを込めたものです。

「結」が持つ、祈りを未来へ繋ぎ留めるという意味合いを、この吉祥のモデルに託しました。

新しい始まりへの希望と、未来への幸福を力強く結びつけるための、お祝いのメッセージのような作品です。

佐々木怜央「ANIMA」

(H)23.5×(W)6.5×(D)9.0㎝
ガラス、金属箔

上野の国立科学博物館にある進化系統樹の展示「系統広場」を見るのが好きだ。

現在生息している生物だけでも途方もなく多様である事に、訪れる度に驚かされる。我々人間は多種多様な生き物が存在する地球に生き、長い歴史の中で自然との向き合い方や作法を確立してきた。

それらは様々な時代や自然環境おいて、それぞれの風土に合わせて築かれ、神話や唄、詩、宗教などで後世に受け継がれている。

作品「ANIMA」は、異形の人型をモチーフとしている。
現代社会に生きる私たちが、自然界へと意識を結びつける一つのピースとして制作した。

財田翔悟「結」

4F（33.3×24.2㎝）

綿布、ピグメント、岩絵具、アクリル絵具

保護猫のススは後ろ脚が一本ありません。

怪我をしていたところを見つけて、病院に連れていったのですが、その時にはすでに壊死していたので手術し、断脚となりました。

先生の話だと何かが絡まってしまっていたのでは、とのこと。

ともあれ、足が3本なことを除けば健康でエサを出せばガツガツ、水もガブガブ、トイレもちゃんと同じ場所にするという健康体。 警戒心が強くてなかなか慣れてはくれないものの最近ようやく撫でられるようになってきました。

良縁か悪縁か、はたまた奇縁かわかりませんが繋がって結ばれた縁を大事にしつつ様子を見ているところです。

TETS「生魂御祖命（いくむすびのみこと）」

キャンバス、ミクストメディア

生命力、創造の根源を司る神。
生命を「結び」、縁を「結び」、物事を創造的に「結び」、動かす根源的な力の象徴。

寺内誠「硬く柔らかな窓辺」

4S（33.3×33.3㎝）

パネル、綿布、白亜地、油彩

夏に台湾を訪れた際、古い集合住宅や民家の窓辺に取り付けられた鉄の飾り格子が目に留まりました。

調べてみると、それらは日本統治時代（1895-1945年）にルーツを持ち、西洋建築の要素と日本の職人が伝えた面格子文化を基に、台湾で独自の発展を遂げた「鉄窓花（てっそうか）」と呼ばれるものでした。

防犯が主な目的でありながら、草花や幾何学模様などをかたどった遊び心のあるデザインは、オーダーメイドによる鉄工職人の手作りらしく、そこにどのような思いやメッセージが込められているのか、想像を巡らせました。

歴史や文化、個々の物語や願いが結びつくという点を今回のテーマと重ねて、花と結び目をモチーフにした自分なりの鉄窓花を表現しました。

野崎慎「宙を見つめる」

3F（27.3×22.0㎝）

紙本彩色

「結」の文字の成り立ちから「祈り」をテーマに制作しました。

目を閉じ、手を合わせ祈ることは、目には見えない大きな存在に対峙すると同時に、自分の内面を深く見つめることでもあります。

それは、目には見えないけれど心の奥深くに確かにある、生命の根源のようなものを呼び起こし響かせる行為なのかもしれません。

作品を通して、「生命とは、存在とは何か？」という問いを探求し、作品を見た人と繋がっていきたいと願っています。

福崎翼「りぼん」

6F（31.8×41.0㎝）

パネル、和紙、顔彩

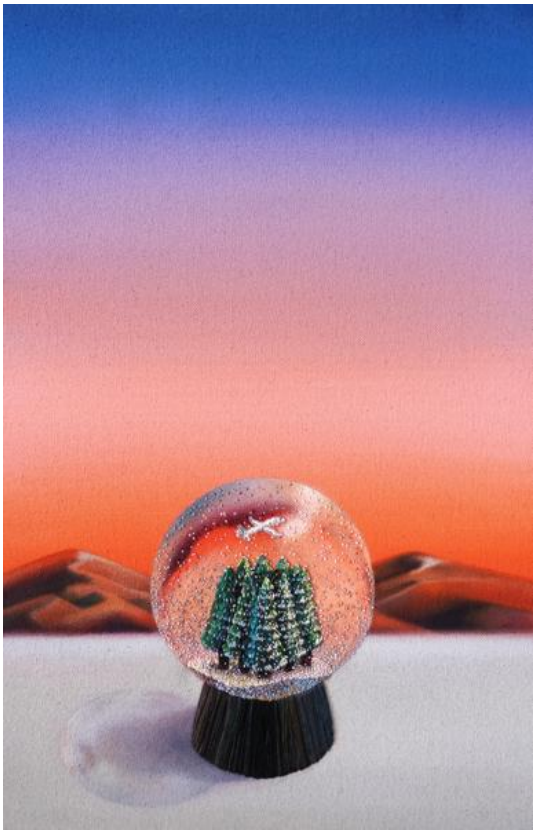
カニは昔から神聖で縁起の良いものとされてきました。

脱皮は成長、ハサミは幸福を招いたり悪縁を断つ、抱卵は子宝に恵まれる象徴、などなど、お祝いごとの席にカニ料理が供されるのも幸運を願ってのことだと思います。

この作品のカニたちは、より良い縁を結ぶための赤いリボンを運ぶ役割を担っています。

この作品を鑑賞するみなさまの、心願、お仕事、健康が、長いリボ ンのようにどこまでも続き、結実し続けますように。

そんな願いを込めて制作させていただきました。



福嶋さくら「route」

6P（41.0×27.3㎝）
綿布、アクリル絵具、糸

目的地へ向かう時、ルートを検索し確認する。

どんなに遠い場所からでも、行きたい場所や帰りたい場所へ向かうための手段を選択することができる。

現在地から目的地までを1本の線が結び、私はそれに沿って進んでいく。

実際には見えない一本の線が安心と自由を与えてくれている。

山内隆「那智滝図 ② / 紀伊 / 和歌山」

(H)37.0×(W)7.8(D)×2.7㎝
板、石

「結によせて」

作品主題のひとつ、「瀧廻り」から「結」について考えてみる。

長時間、滝を見つめていると、その形は落下のわずかな時間のなかで結ばれ、崩れ、そして別の結びとしての再生を繰り返している。そのダイナミズムは途切れることなく続き、落下を追う視線は、やがて形の識別を失い、目視不能となる一瞬へ至る。その断絶のなかで、時間がわずかに折れ曲がるように感じられることがある。
一方で滝壺は、落下の運動がいったん集まり、過去の水が結ばれ、未来へとほどかれていく場である。

そこには、時間が交差する接点が、はっきりとした気配として立ち現れている。